

日 時：令和6年7月3日（水）午後1時30分～午後3時30分

会 場：多摩市役所 西第6会議室

出席者：8名

傍聴者：1名

1 開会

- ・委員長挨拶

2 報告

（1）介護予防・日常生活支援総合事業の令和3年度実績及び令和4年度目標値

（資料1に沿って説明）

（意見）TAMAフレイル予防プロジェクト（TFPP）において、目標回数に達することができなかった理由、参加者が減っている理由はなにか。

（事務局）小規模の申し込みが少なかった。令和5年度は地域介護予防教室でのTFPP開催をしなかった。参加者数に関しては、日程決定が遅くなったことが要因として考えられる。今年度は日程を予め設定することで周知を図っていく。

（意見）TFPP実施において、住民参画の割合とサポートスタッフの割合はどのくらいか。また、リピート参加はどれくらいいたのか。

（事務局）住民参画の割合やリピーターについては追えていない。

（意見）地域リハビリテーション活動支援事業によるリハビリテーション専門職の派遣において、通所型短期集中予防サービス事業（元気塾）につながった事例があるか。

（事務局）具体的な数字は挙げられていない。虚弱な方がいた場合は地域包括支援センターにつながっているという報告を受けている。地域介護予防教室については、元気塾のリハビリテーション専門職の訪問により元気塾の利用につながっている。

（意見）通所型短期集中予防サービス事業において、改善率がよい。基本チェックリスト問1～20において改善がみられると、翌年の要介護発生が下がることがわかっている。基本チェックリストが何点つくとも要介護発生率がいくつになるという資料を作成して、示せると良いのではないか。

（事務局）今後、評価の根拠として挙げられるよう検討していく。

（意見）住民主体による訪問型サービス事業において、使いやすさに改善点があれば示してほしい。また、全国的に介護事業所の倒産や、軽度の方へのサービス提供が減少傾向にあるが、多摩市の現状はどうか。介護事業所の代わりとなりうる事業の整理ができていれば提示してほしい。

（事務局）多摩市内の介護事業所数は大きな変化はないが、人材確保に課題がある。住民主体による訪問型サービスにおいては、令和6年度から、利用回数を週1回から週2回に、買い物動向支援を60分以内から90分以内に変更し実施している。また支援者側のつなぎやすさについては、介護予防ケアマネジメントの検討を進めていきたい。

（意見）後期高齢歯科検診の通知からTFPPに参加し、介護予防リーダー養成講座につながったという話を聞いた。

（意見）運動・栄養・社会参加がフレイルの3本柱であり、フレイル予防には、運動の前後に栄養を摂ることが重要である点に焦点を当ててほしい。

（意見）データの活用がさらに進むと、介護予防活動の推進につながるのではないか。

(2) 令和6年度TAMAフレイル予防プロジェクト(TFPF)実施計画(資料3-1、3-2に沿って説明)

(意見)参加時に次回の案内ができれば、リピーターの確保につながるのではないか。

(意見)男性参加を促したのであれば、男性を呼び込む回を作るとよいのではないか。

(意見)運動習慣のある人を呼び込むのであれば、タンパク質等の栄養学やオーラルフレイルなど、アディショナルな情報が得られるようにすれば満足度も向上するのではないか。

(3) 令和6年度健康づくり推進事業について(資料4に沿って説明)

(意見)ウォーキングにおいて、平地と坂では運動負荷が2~3倍の違いが出てくる。フレイル予防ウォーキングコースとして、坂を活用し、運動負荷や筋力増強に関して効果を見える化すると良いのではないか。推進員の体力測定について、測定項目は共通の項目でよい。フレイル、サルコペニアを反映するには、立ち上がり速度が関連してくるため、追加してもよいのでは。

(4) 高齢者の保健事業と介護予防の一体的実施事業の取組状況について(資料5に沿って説明)

(意見)リスクのある人、特に、腎機能不良に該当する人については保健師等の訪問が必要である。多摩市においては、訪問対象を絞り込むことが課題。

3 協議

介護予防手帳について(資料6に沿って説明)

(意見)今後を考えると紙媒体ではなく、スマートフォンの活用にシフトしてもよいのでは。介護予防手帳を一番興味があるであろう60代70代の世代が認知しやすい媒体を検討できるとよい。

(事務局)内容を整理しながら、ホームページ等活用しながら発信できる方法を検討していきたい。紙媒体については、必要性の有無も含めて検討していく。

4 その他

次回、令和7年2月7日(金)午後1時30分~午後3時30分開催

以上